

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(鉄道を中心とした地域活性化)
たかはし とおる
高橋 徹

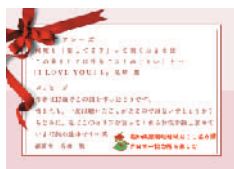
❶ 着任して丸1年が経過しました。最近のお仕事はどのようなものですか？

❶ 着任当初は研修のため、四万十市・中村駅の土佐くろしお鉄道の事務所に出勤していましたが、9月からは佐賀駅で勤務をしています。普段は午前7時に出勤して、学生さんたちを見送り、日中は鉄道を利用される高齢者の方と交流したり、荷稻から西大方まで、町内の駅を掃除したりしています。そのほかにも、町民の方から本を寄贈していただき、鉄道を利用する学生を中心に読んでもらい、メッセージカードを通じて両者をつなげる取組を行っています。また、本だけでなく、好きな歌詞のフレーズに対するメッセージも募集しています。

❷ 黒潮町の暮らしはどのようなものですか？

❶ ご飯が美味しくて、町の人も優しく、想像していた通りの町でした。季節を身近に感じられ、写真を撮りたくなる風景が多いですね。暮らしていて不便を感じることはありません。佐賀の消防団に入って同世代の方と知り合ったり、ピアノやバドミントンをしたり、仕事もプライベートも充実しています。現在プライベートでは学習塾を開いていて、任期終了後には学習塾一本で生計を立てられるよう、最も力を注いでいます。

❸ 今後、任期終了までにどんな取組をしたいと考えていますか？



駅に貼られている歌詞カード

❶ 駅に人を集めるだけではなく、汽车を利用してもらえるようにしっかり宣伝をしていきたいです。現在行っている取組のほかにも、鉄道を利用したイベント企画なども行いたいと思っています。

協力隊から一言！

土佐くろしおでかけきっぷを使って、たまには汽车でおでかけしてみませんか。

Kramer's Corner クレマのコーナー



今月のテーマ 友好を育む桜

最近暖かくなり花見の時期がやってきました。日本は美しい桜で知られ、毎年世界中から何百万人もの観光客が日本の桜を見にきますが、アメリカでも桜を楽しめることを知っていますか。アメリカにいくつかの桜スポットがありますが、最も有名なのは首都のワシントンD.C.にあります。アメリカ合衆国議会議事堂の前に複数の国有博物館や記念館が建つ巨大な公園が広がり、春になると約3,800本の桜が鮮やかに咲き誇り、公園の入り江に薄桃色の雲のように映ります。

なぜそこに桜の木があるかというと、実は両国の間の友好関係を育むために日本から寄贈されたものです。最初に植えたのは1912年3月27日に東京市長から贈られた3,020本の本で、毎年春その寄贈を記念するNational Cherry Blossom Festival(全米桜祭り)が開催されます。3週間の祭りで花見はもちろん、楽しめるイベントが盛りだくさんです。コンサートやダンス公演、日本酒の試飲会、たこ揚げ大会まであります。それに芸術展示、落語、着物のファッションショー、格闘技などで日本文化を存分に味わえます。毎年70万人以上が訪れ、桜を楽しみ、日本とアメリカの親密な関係の継続を祝います。両国を結びつけているこの木々が末永く美しく咲き続けることを願っています。



ワシントンD.C. の桜

今月の使える！英語

Fresh as a daisy!

花のテーマに合わせて、今月の英語は花に関する慣用方言。直訳すると「ヒナギクのように爽やか」という意味で、元気で生き生きする気分を表す時に言います。

